

第4学年 体育科学習指導案

令和6年6月 27 日(木) 6校時

4年2組 30名

石垣市立平真小学校

授業者 半嶺 由和子

共同研究 八重山地区小学校体育研究会

1 研究テーマ

豊かなスポーツライフを育成する自己調整力の育成
～児童の変容の見取り方の工夫を通して～

2 研究の目的

本研究会では、昨年度「アウトプット(表現)」ができるように、知識・技能をどう「インプット」させるかに重点を置きながら研究を行ってきた。その研究実践においては、思考力、判断力、表現力を育むためにきりタイムの設定やふり返しシートでの見取り、GIGA 端末の活用による表現力の向上などにより一定の成果も見られた。

学習指導要領では、体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することを目指しており、「(2)運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う」としている。

八重山地区の現状では、運動の二極化が進み、運動に積極的に取り組む児童とそうでない児童の体育以外で運動する時間に差が出てきている。また、運動能力の差により積極的に授業に参加することができない児童も一定数存在する。したがって、これからの体育の授業で求められるのは「する」ことだけではなく、「みる」「支える」「知る」など自己の適性に応じてさまざまな学びの方法を選択・決定しながら、学習に取り組む力だと考える。

そこで、前年度までの研究を踏まえつつ、将来にわたり運動に親しむ資質や能力を育成し、豊かなスポーツライフの実現のための自己調整力を育成していくことを目指す。

※自己調整力とは、児童が自ら学習の場や学習方法を選択し、学習に取り組む力とする。

本単元のマット運動では、場の設定と技の資料提供の仕方を工夫し、ICT 機器を活用しながら、自分の課題を解決するために選択・決定を繰り返しながら授業を進めていく。

練習場所を複数箇所設置し、自分の課題に合った練習場所を選択させ、主体的に練習できるようにする。また練習する際、児童が ICT 機器を活用して動きの確認を行えるようにし、お手本動画と自分の動画を比べたり、掲示された技のポイントと見比べたりしながら、児童同士で話し合いながら学習できる環境を整える。

さらに、自己選択、自己決定の場を意図的に設定し、話し合い活動を通して児童が自らの課題解決ができるようにすることで自己調整力の育成を図る。

3 研究仮説

ルーブリックと振り返りシートを活用し、指導と評価の一体化を図ることで、児童が学び方について主体的に自己選択、自己決定を繰り返し、課題解決に向けた自己調整力が育成できるであろう。

4 研究内容

- (1) 総括的な評価のルーブリックの活用方法
- (2) 振り返りシートを活用した情報の収集・分析
- (3) ICT 機器を活用した話し合い活動の充実

5 単元名

「マット運動」

6 単元の目標

【知識及び技能】	【思考力, 判断力, 表現力等】	【学びに向かう力, 人間性等】
マット運動の行い方を知るとともに, 回転系や巧技系の基本的な技ができるようにする。	自己の能力に適した課題を見付け, 技ができるようになるための活動を工夫するとともに, 考えたことを友達に伝えることができるようにする。	マット運動に進んで取り組み, きまりを守り誰とも仲よく運動をしたり, 友達の考えを認めたり, 場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができるようにする。

7 「する、みる、支える、知る」を関連付けた学習活動について

	する	みる	支える	知る
知識・技能	運動の特性や行い方を理解し、実践する。	運動の特性や行い方をみつける。	運動の特性や行い方を共有する。	運動の特性や行い方を知る。
思考・判断・表現	課題の解決のための練習や方法を選んで運動に取り組む。	自分や仲間の良さ・課題をみつける。	仲間と協力し合い、アドバイスし合ったり、励まし合ったりする。	自分のできていることや課題を知る。

8 体育の見方考え方

運動やスポーツについて、その意義や特性に着目して、楽しさや喜びを見出すとともに体力の向上に果たす役割を捉え、公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全といった視点を踏まえながら、自己の適性等に応じた「する・みる・支える・知る」等の多様な関わり方について考えること

9 運動の特性

(1) 一般的特性

- マット運動は体の回転や倒立など、日常生活では通常行われない動きを含んだ運動を行うことが特徴である。
- 自己の能力に応じた回転系、技巧系の技に挑戦し、個々の技やこれらの組み合わせが円滑にできるようになるところに、楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

(2) 児童から見た特性

- 回転系と技巧系など児童が挑戦できる技の幅が広がるため、普段経験しない動きを経験することで様々な運動感覚を身に付けることができる。
- できない技ができるようになったり、できるようになるために試行錯誤したりしながら、課題を克服する面白さがある。
- 「できた。」という実感が伴わなければ楽しむことができない。

10 単元について

(1) 教材観

本教材は、学習指導要領において「B 器械運動 ア マット運動」に位置付けられており、知識及び技能において「その行い方を知るとともに、自己の能力に適した回転系（前転など）や技巧系（壁倒立など）の基本的な技をすること。また、基本的な技に十分に取り組んだ上で、それらの発展技に取り組んだり、技

を繰り返したりすること。」をねらいとしている。マット運動は、技を身に付けたり、新しい技に挑戦したりするときに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。しかし、器械運動としての技の習得を中心とした活動を行うと、意欲が低下してしまい苦手意識を持たせやすい運動でもある。そのため、児童が技を身に付ける楽しさや喜びを味わうことができるよう、自己やグループの課題を見付け、その課題解決の仕方を考えたり、練習の場や段階を工夫したりすることが重要である。そして、技の習得を目指す中で、知識や技能だけではなく、思考力、判断力、表現力等を育みやすい教材である。

(2) 児童観

本学級の児童は明るく元気であり、多くの児童が休み時間には教室を飛び出し、活発に外遊びをしている。一方、一部の児童は、教室で読書をしたり、話をしたりして過ごしていることが多い。

本学級の児童のアンケート結果は以下のようになった。なお、3 年時の授業を思い出させながら、アンケートをとった。

アンケート項目	肯定的%	否定的
①目標を立てて課題に取り組むことができた	83.3	17.7
②今日の授業で何をするのか分かっていった	79.2	20.8
③課題の技が難しくてもあきらめずに挑戦することができた	63.5	27.5
④いつも集中して課題に取り組むことができた	82.6	17.4
⑤課題の技ができた自分をイメージして練習に取り組むことができた	32.8	67.2
⑥動画を見たり、友達と話をしたりして自分の技の出来栄を確認することができた	82.6	17.4
⑦友だちや先生にアドバイスやヒントを聞きながら練習に取り組むことができた	54.2	45.8
⑧授業の後に授業のふり返しを行うことができた	69.6	30.4
⑨次の授業でどうすれば課題を解決できるか考えることができた	53.2	47.8

アンケート項目①②④⑥の結果について、約80%近くの児童が肯定的に回答しており、体育の授業に主体的に取り組む、動画・掲示物を参考にし、技のポイントを意識しながら練習に取り組んできたことが伺える。しかし、アンケート項目⑤⑦⑨では、肯定的な回答が約50%と、友達や先生に伝えたり、アドバイスしたりすることや自分の課題を捉えて、授業に取り組む意識が低いことがわかる。課題の見られた項目を解決し、自己調整力を育てていくために以下の指導の手立てをたてる。

II 本単元における指導の手立て

(1) 運動量確保のための工夫

①準備運動

音楽に合わせて学年で統一した準備運動をする。型をそろえることでスムーズに準備運動ができる。また、授業での運動量確保のため、児童の準備ができ次第開始する。運動領域の種類に合わせて手の平や手首のストレッチを入れたり、下半身のストレッチを組み込んだりしている。

②基礎感覚運動

毎時間の始めに、動物歩きや、ゆりかご、かえるのあしうちなどを通して、腕支持感覚や逆さ感覚、回転感覚などを養うようにする。

(2) 話し合い活動の工夫

全員で個人の動き(動画も含む)をみて、良いところや気付いたところを共有し合う。見本となる動きや課題となる動きを確認し、技のポイントを意識させながら、練習方法について話し合わせる。そうすることで知識、技能の向上を図ったり、新たな練習方法にチャレンジしたりするなど思考力、判断力、表現力の向上も目指す。

(3) 掲示物・場について

① 掲示物の工夫

児童が主体的に自己の能力に適した課題を見つけ、その課題を克服するために試行錯誤する過程をサポートするツールとして掲示物の工夫を行う。各マットで練習する技を固定化し、同じ技を練習する児童同士が掲示物を基にアドバイスができるようにする。また、掲示物については、光文書院の副読本を拡大掲示し、ポイントを明確化する。

② 場の工夫

2枚組のマット6組用意し、各グループのマットとして基礎感覚運動や一斉指導を行う。授業後半では、回転系・技巧系の技で大きく分け、柔軟に場を選択できるようにする。また、それぞれの場の人数や児童が取り組んでいる技に応じて場の変更を行うなど、児童が思考・判断しやすいように工夫する。組み合わせ技に取り組む際には、実技の場、練習の場、きりりタイムの場を設定し、仲間との伝え合いの中で、組み合わせ技の出来栄を高められるように授業を展開していく。

(4) 学びを自覚させるための工夫

① 学習カード(ループリックの活用)

単元を通してループリックを活用し児童の変容を見取っていく。児童にはエクセルシートで作成、入力させる。振り返りには、取り組んだ技、意識したポイント、できるようになったことなど、授業で学んだことを入力させる。そして、振り返りを基に、次時に向けて取り組みたいことを意識させ、学びを自覚させていく。また、毎時間の自己評価を観点別に点数化し、個人の成長を可視化することで、指導と評価の一体化を図りながら授業改善を行うことができる。

マット運動 ループリック

	回転系・技巧系の基本技		発展技
	【前転】 【後転・開脚後転】 【補助倒立ブリッジ】 【前方倒立回転】 【首はね起き】 【壁倒立】 【頭倒立】	【開脚前転】 【伸脚後転】 【倒立ブリッジ】 【ロンダート】 【頭はね起き】 【補助倒立】	発展技
技	S	A	B
知識・技能	□基本の技がくりかえし成功でき、発展技から一つ技ができる。	□回転系・技巧系の基本の技から一つづつ技ができる。	□基本の技から一つ技ができる。
考え	□友達の課題にもアドバイスをした。	□自分の課題を見つけ、解決する方法を考えている。	□仲の良い友達がいるからその場で練習をしている。
思考判断表現	□友達の動きの良い点や工夫したい点を伝えた。	□自分の課題を見つけ、解決する方法を考えている。	□仲の良い友達がいるからその場で練習をしている。
態度	□基本の技、発展技に進んで挑戦している。	□基本の技に繰り返し、取り組もうとしている。	□きまりを守ろうとしない。
態度	□友達に寄り添い、声をかけたり助まったりしている。	□準備や片付けに取り組んでいる。	□安全に気を付けずに好き勝手にやる。
態度	□マットを直したり、周りの安全に気を配っている。	□マットにつながる危険な周りをしていない。	□安全に気を付けずに好き勝手にやる。

	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時	第7時	第8時	第9時
1 自分で今日の授業の評定をしよう！(ループリック)									
2 基礎感覚運動で体をうまく使うことができた	○	△	△	△	△	△	△	△	△
3 回転系の技が1つ以上できた	△	△	△	△	△	△	△	△	△
4 側転系の技が1つ以上できた	△	△	△	△	△	△	△	△	△
5 新しい技ができるようになった	△	△	△	△	△	△	△	△	△
6									
7 振り返り項目									
8 自分の出来そうな技にチャレンジできたか	1	3	3	3	3	3	3	3	3
9 お手本動画やお手本の掲示を参考に練習出来たか	3	2	3	3	3	3	3	3	3
10 技ができるポイントを確認して練習出来たか	3	2	3	3	3	3	3	3	3
11 自分の技に合った練習場所を選んで練習出来たか	1	3	3	3	3	3	3	3	3
12 技のできええ、ポイントなどを友達とアドバイスしながら練習出来たか	2	3	3	2	3	3	3	3	3
13 うまくできない時に、先生や友達に相談することができたか	3	3	3	3	3	3	3	3	3
14 基本の技や発展技に取り組むことができたか	1	2	3	2	3	3	3	3	3
15 練習中にお友達を応援したりほめたりしましたか	3	1	2	1	3	3	3	3	3
16 朝の授業と比べて少しでも技ができるようになったか	2	2	2	3	3	3	3	3	3
17 場や用具の準備や片付けを行ったり、場の安全に気を付けて活動することができたか	3	3	3	3	3	3	3	3	3
18									
19 項目集計									
20 知識・技能	2.33	2.33	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00
21 思考・判断・表現	2.00	2.00	3.00	2.67	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00
22 主体的に学習に取り組む態度	3.00	2.67	3.33	3.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00

② ICT 機器

電子黒板は、教師用タブレットを同期させる。全体に指示を出したり、撮影した動画を確認したりするために活用する。また、学級の Google クラウドに見本動画や技のポイントが示された図を配布し、児童それぞれが見ることができるようにし、自己に適した課題を捉えるツールとして、自分自身を客観的に見るための手立てとして有効であると考え。

⑥ マット運動⑥「大きく回ってぱっちりポーズ」

半蔵市和子・6月18日 (最終編集: 6月27日)
100点

学習の流れ

(1) 準備体操・サーキット [14:40~14:50]

(2) 活動 始めて1「技の完成度をあげよう」 [14:50~15:05]

【練習の方法】

①動画や掲示物を見て技のポイントを確認して練習しよう！

②友達に自分の課題を伝えて、アドバイスもらおう！

(3) 活動 始めて2「組み合わせ技に挑戦しよう」 [15:05~15:20]

【練習の方法】

①グループで組み合わせ技に挑戦し、動画を撮ったりして練習しよう！

②課題があったら、自分にあった練習場所を選んで練習しよう

(4) まとめ・片付け [15:20~15:25]

リンク

https://kobun.net/q?id=mQ2P4cxw

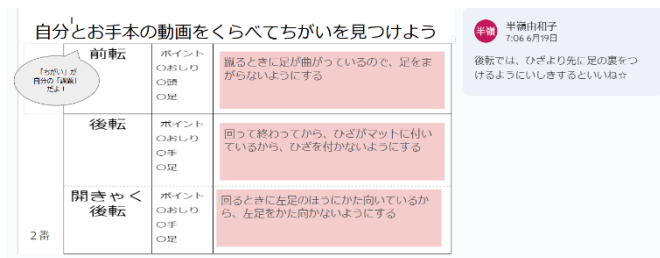
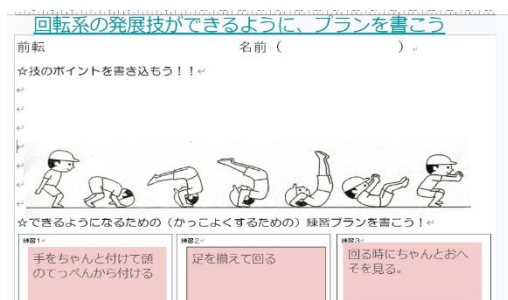
R6 ふり向きシート4-2S...

Google スプレッドシート

ぜんてん
前転

③家庭学習との往還

児童の体育特有の表現力を高めるためには、確実な知識を習得したり、共有したりする時間の確保が必要不可欠である。授業を通して得た知識や技能を家庭学習で、振り返りができるようにする。例えば、自身の動画を見直し、改善するための練習方法を考えさせたり、穴埋め問題で技のポイントを意識させたりする。そうすることで、一人一人にインプットとアウトプットを結びつけられるようにする。



12 評価規準

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①回転系や技巧系の基本的な技の行い方を知っている。 ②自己の能力に適した技を大きな動きですることが出来る。	①自己の能力に適した課題を見つけている。 ②課題の解決のための活動を選んだり、自己や仲間の考えたことを仲間に伝えたりしている。	①マット運動に進んで取り組もうとしている。 ②約束を守り、仲間と助け合って運動をしている。 ③場や器械・器具の安全に気を付けている。

(2) 単元の評価規準に即した児童の具体的な姿

	十分満足できる姿 A	おおむね満足 B	努力を要する児童への手立て
知識・技能	①マット運動の行い方（ポイント）について具体的に示しながら言ったり書いたりしている。	①マット運動の行い方（ポイント）について言ったり書いたりしている。	①掲示物やタブレット上の資料等でマット運動のポイントが分かるように促す。
	②自己の能力に適した技を安定してすることが出来る。	②自己の能力に適した技ができる。	②仲間の動きを参考に、うまくできるためのポイントを示す。
	③繰り返し技、組み合わせ技を安定してすることが出来る。	③技を繰り返したり組み合わせたりすることが出来る。	③仲間の動きを参考に、うまくできるためのポイントを示す。
思考・判断・表現	①自己の具体的な課題がわかる。	①自己の課題を見つけようとしている。	①仲間の意見を参考にしたり、仲間にアドバイスをもらったりさせる。
	②問題の解決のための場を具体的な理由を基に選んだり、考えたりしている。	②課題の解決のための場を選んだり考えたりしようとしている。	②仲間の意見を参考にさせたり、掲示物と ICT による自身の動きの振り返りを確認させたりする。
	③選んだり考えたりしたことを仲間に技のポイントを具体的に伝えている。	③選んだり考えたりしたことを仲間に伝えている。	③掲示物やタブレット上の資料、仲間の動きを参考に、動きのポイントを確認させ、動き方の視点を持たせる。

主体的に学習に取り組む態度	①仲間意識をもって、練習に積極的に取り組もうとしている。	①マット運動に積極的に取り組もうとしている。	①個人のできたことや伸びたところを称賛する。また、仲間のよさに目を向けさせ、見本とする。
	②規則を守り、積極的に誰とでも仲よく運動しようとしている。	②規則を守り、誰とでも仲よくしようとしている。	②楽しく学習するためには規則を守ることや仲間と助け合うことが必要であることを全体で確認する。
	③積極的にアドバイスをし合いながら運動している。	③仲間にアドバイスをし合いながら運動している。	③楽しく学習するためには、アドバイスをし合うことが必要であることを全体で確認する。
	④積極的に使用する用具を片付けたり、場の整備をしたりするとともに、用具の安全に気を配っている。	④使用する用具を片付けたり、場の整備をしたりするとともに、用具の安全に気を配っている。	④一人ひとりが協力することで、楽しく学習できることを理解させる。

13 単元の指導と評価の計画(全 7 時間)

単元目標

- (1)マット運動の行い方を知るとともに、回転系や巧技系の基本的な技ができるようにする。
 (2)自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。
 (3)マット運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができるようにする。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①回転系や技巧系の基本的な技の行い方を知っている。 ②自己の能力に適した技を大きな動きですることができる。	①自己の能力に適した課題を見つけている。 ②課題の解決のための活動を選んだり、自己や仲間の考えたことを仲間に伝えたりしている。	①マット運動に進んで取り組もうとしている。 ②約束を守り、仲間と助け合って運動をしている。 ③場や器械・器具の安全に気を付けている。

指導と評価の計画（7時間） テーマ1：自分の力にあった技を身につけよう。 テーマ2：できる技の繰り返しや組み合わせ技に挑戦しよう

時間	1	2	3	4	5	6（本時）	7
ねらい	学習の見通しを持つ	基本的な技の行い方を知り、技に挑戦することを楽しむ		課題の解決のための活動を工夫して技に挑戦したり、技を繰り返したり組み合わせたりすることを楽しむ			学習のまとめ
学習活動	オリエンテーション 1 準備体操 2 単元の学習の見通しを持つ ・単元目標と学習の進め方を知る ・学習のきまりを知る 3 場や器械・器具の準備の仕方を知る 4 基礎感覚運動の行い方を知る (・いぬ・アザラシ・くま・きりん・うさぎとび・かえるの足うち・川とび・ゆりかご・大きなゆりかご・ゆりかごから起き上がる・ブリッジ・背支持倒立) 5 マット運動をする(実態把握) ・前年度までの技を確認する。 ・前転・後転・ 6 ふりかえり ・本時をふりかえり次時への見通しを持つ。	1 準備体操 2 基礎感覚運動(・いぬ・アザラシ・くま・きりん・うさぎ・かえるの足うち・川とび・ゆりかご系・ブリッジ・背支持倒立) 3 めあて学習活動の確認 ☆回転系 4 チャレンジタイム【基本的な技の習得】 ★個人が今できる技に挑戦することで、技のポイントの理解を深め、技能を高める。 ★自分の課題を解決するためにあった場を選び活動する。 ★運動に進んで取り組み、友達と気づいたことを伝え合い、認め合う。 5 パワーアップタイム【新たな技の習得】 ★自己の能力に適した新たな技に挑戦し、技のポイントを理解し、技能を習得する。 ★自分の課題を解決するためにあった場を選び活動する。 ★運動に進んで取り組み、友達と気づいたことを伝え合い、認め合う。 6 ふりかえり ★できたことや分かったこと、友達の動きで真似してみたいものなどを振り返る。					
		3 めあて・学習活動の確認 ☆倒立系 4 チャレンジタイム【基本的な技の習得】 ★個人が今できる技に挑戦することで、技のポイントの理解を深め、技能を高める。 ★自分の課題を解決するためにあった場を選び活動する。 ★運動に進んで取り組み、友達と気づいたことを伝え合い、認め合う。 5 パワーアップタイム【新たな技の習得】 ★自己の能力に適した新たな技に挑戦し、技のポイントを理解し、技能を習得する。 ★自分の課題を解決するためにあった場を選び活動する。 ★運動に進んで取り組み、友達と気づいたことを伝え合い、認め合う。 6 ふりかえり ★できたことや分かったこと、友達の動きで真似してみたいものなどを振り返る。	3 めあてと学習活動の確認 4 チャレンジタイム ★同系統でグループを組み、練習をする。 ★互いに気づいたことを伝え合い、認め合う。 5 パワーアップタイム ★グループの課題を意識し、組み合わせ技を練習する。 ★自分たちの課題を解決するためにあった場を選び活動する。 ★運動に進んで取り組み、友達と気づいたことを伝え合い、認め合う。 6 ふりかえり ★できたことや分かったことを友達の動きで真似してみたいものなどを振り返る。	学習のまとめ 1 マット運動発表会をする ・発表する技、技の繰り返しや組み合わせ技の練習をする。 ・グループ内で発表する。 2 ふりかえり ・単元をふりかえり、学習のまとめをする。			

知識・技能			①				②
思・判・表		①			②	②	
態度	③			②			①

14 本時の学習(6/7時間目)

(1) 本時の目標

自己や仲間の課題に対して、改善すべきポイントを考えたり、伝えたりすることができるようにする。

(2) 授業仮説

練習場所や技のポイントの提示の仕方を工夫し、話し合いながら課題に取り組むことができる場を設定することにより、課題解決に向けた自己調整力が育成できるであろう。

(3) 準備物

マット、ロイター板、掲示物、ホワイトボード、タブレット、電子黒板

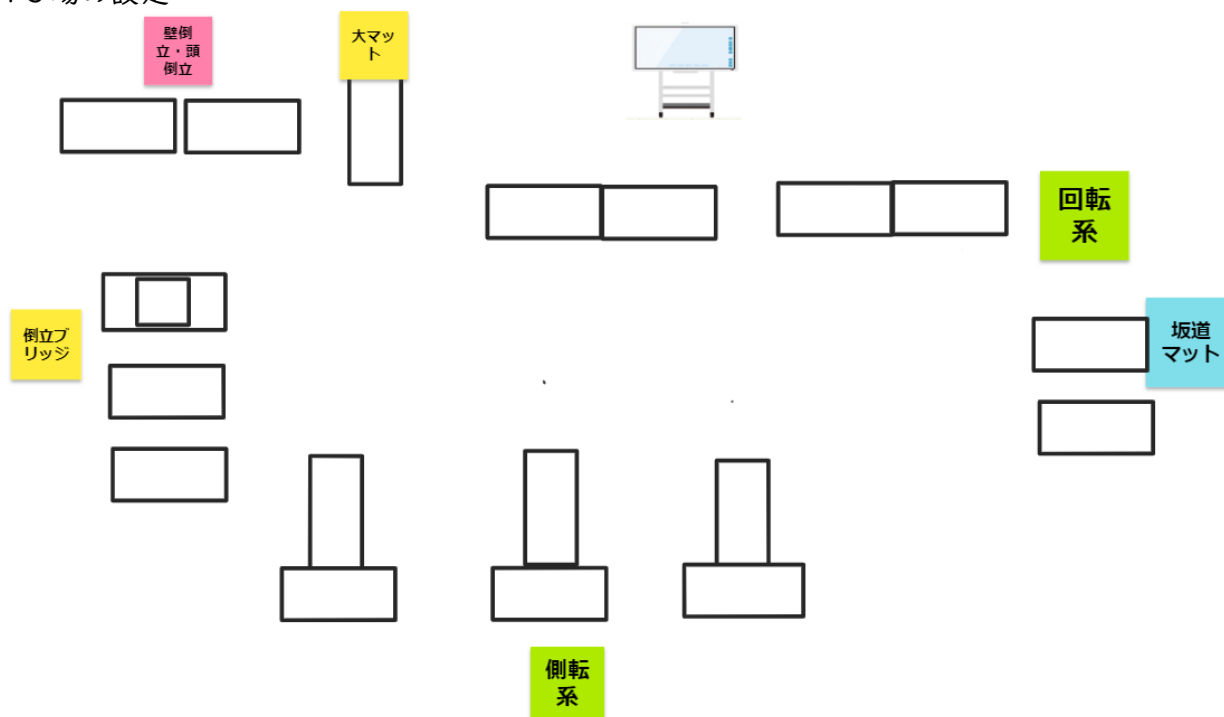
(4) 本時の展開

	主な学習活動	○指導	★評価
	準備運動		
導入	1 基礎感覚運動	○めあて1に必要な類似運動に取り組ませる。 ○前時の学習の振り返りをする。	
展開	2 活動①(10分) めあて1:技の完成度をあげよう。 【チャレンジタイム】 ◇めあて1の解決に向けて取り組む。 ・自分に合った場を選択する。 ・きりりタイムを適宜設定する。	○同系統の技でグループを組み、仲間同士で取り組ませる。 ○練習の仕方の例を参考にしたり、タブレットで自分の動きを確認したりさせる。	
	3 活動②(15分) めあて2:組み合わせ技に挑戦しよう。 【パワーアップタイム】 ◇めあて1の解決に向けて取り組む。 ・場は各グループに2枚ずつ試技用のマットを割り当てる。練習ゾーンも用意する。 ・自分にあった技を練習する。 ・きりりタイムを適時設定する。	○同じ場にいる仲間と、課題を意識しながら組み合わせ技の完成度や構成を確認し、よいところや気付いたことを交流させる。 ○場合に応じて練習ゾーンで、課題解決に取り組ませる。 ○共有したことを基に、グループで練習をさせる。	
まとめ	4 振り返り(6分) ・振り返りをタブレットで行う。 5 まとめ(3分) ・学習のまとめと次時の見通しを持つ。	○発見したこと、アドバイスを受けたことなどを想起させ、次のめあてにつながるような振り返りにさせる。 ○児童の振り返りや発表、活動の様子や、見本児童の動画を基にポイントを共有する。	

(5) 評価

課題の解決のための方法を選んだり、考えたことを仲間に伝えたりしている。【思・判・表】

15 場の設定



16 研究結果

(1) 成果

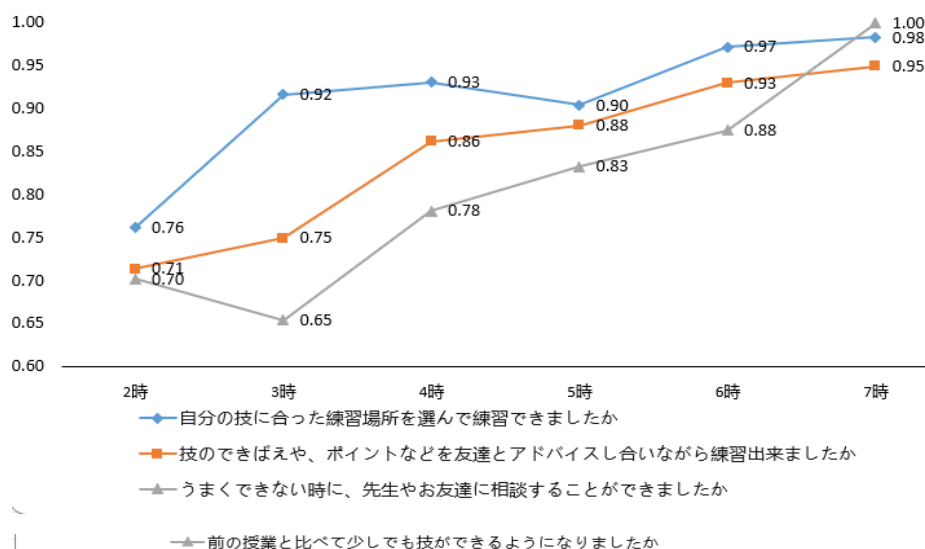
- ① ルーブリックを用いたことで、教師が明確なフィードバックを提供できるようになり、児童は自分の進捗を自己評価し、改善点を見つけることができた。
- ② 課題の解決のために動画や掲示物を活用させたことで、児童が自らの課題を解決する場や方法を選んだり、考えたりしていた。
- ③ 話し合い活動の場において、自分や友達の動画とお手本の動画を比較できたことで、たがいにアドバイスやヒントを得ながら、練習に取り組むことができた。
- ④ 授業で得た知識や技能を家庭学習を通して振り返らせたことで、知識の定着が促進され、授業での理解度が高まり、学び合いが活発になった。

アンケート項目	肯定的% (授業前)	肯定的% (授業後)
①目標を立てて課題に取り組むことができた	83.3	100
②今日の授業で何をするのか分かっていった	79.2	94.7
③課題の技が難しくてもあきらめずに挑戦することができた	63.5	89.5
④いつも集中して課題に取り組むことができた	82.6	94.7
⑤課題の技ができた自分をイメージして練習に取り組むことができた	32.8	100
⑥動画を見たり、友達と話をしたりして自分の技の出来栄を確認することができた	82.6	89.5

⑦ 友だちや先生にアドバイスやヒントを聞きながら練習に取り組むことができた	54.2	89.5
⑧ 授業の後に授業のふり返しを行うことができた	69.6	94.7
⑨ 次の授業でどうすれば課題を解決できるか考えることができた	53.2	100

技ができるポイントを確認して練習出来ましたか

思考・判断・表現



・エクセルシートで記録した児童の振り返りを集計して点数化し、児童が学び方について主体的に自己選択、自己決定を繰り返し、課題解決に向けた自己調整力が身についているかどうかそれぞれについてまとめた。上のグラフは、第2時から第7時までの移り変わりを示している。どの項目においても、数値の上下を繰り返しながら、最終的に高まったことが分かった。きらりタイムを焦点化した第4時では、表現の仕方の例（何を伝えるか、どこを見てあげるか）などを具体的に知ったことによって大きく高まったと考察できる。きらりタイムを活発化させ、児童にも実感が伴うようにするためには、表現の仕方の例を教師が示し、活動の中で価値づけていくことが大切になると考える。

（２）課題

- ① アドバイスする内容の質を高めるために掲示物や動画を準備していたが、実際に児童がそれらを活用して活動する姿があまり見られなかった。
- ② ふり返しシートを活用したフィードバックやその場での助言が効果的ではなかったため、児童の技の習得に時間がかかった。
- ③ ワークシートによって

《参考文献》

- ・文部科学省 小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 体育編 平成 29 年 7 月
- ・光文書院 『体育の学習 4 年』 沖縄県小学校体育研究会 編著
- ・白旗和也 『小学校「体育授業」の基本』 東洋館出版社